



ドローンによりみやこ町犀川木井馬場地区を臨む。古来、瀬戸内海航路の西の拠点である行橋地区と英彦山を結ぶ街道であったらしい。その祓川沿いの道も今は伊良原ダム工事により左側のまっすぐな車道に変わってしまった。

# 仏法領

## ぶつぽうりょう

第84号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

### 懐かしい人々

母は アルバムを開き  
昔の写真を見ている

多くは語らないが  
記憶をたどりながら 懐かしい顔を  
思いだしているのだろうか

懐かしさとは 心の中で  
「ぽっ」とあたたかくなる気持で  
人を笑顔にできる

不思議な力を持っている  
思い出の物や風景も  
その一つかもしれない

良い思い出も  
そうでない思い出も  
時が過ぎれば

懐かしい心の風景になっていく  
旧友はどうしているだろうか  
叔父さんは元気になっているだろうか  
息子の声を最近きいていないなあ

懐かしい人に何かにかこつけて  
電話を試してみよう

手紙を書いたらもっと喜んでくれる  
だろうか  
喜ぶ顔を思い浮かべながら  
楽しい時間を過ごしてみよう

(写真・文 大迫光浩)



S39、御遠忌 住職小2

### 念信寺に残るモノ

今回、前号に続いて、懐かしい人やモノを特集しました。お寺には、これはなんだろうというものがありますので、それを取りあげてみましょう。

一つは「九条関白殿御寄附」の看板が昔からあるものです。今回ネットをひいてみると、意外な事実が判明。

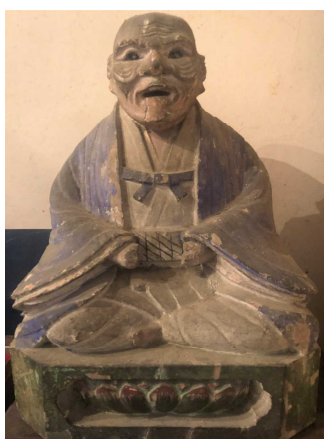
滋賀報知新聞(2012年1月25日)によると、滋賀県伊庭町の妙楽寺で九条関白寄附の「浄土三部経」が発見された。幕末の公家・九条尚忠が家祖の九条兼実の六百五十回忌に合わせて寄附品として東西両本願寺、末寺2万ヶ寺に配ったもの。研究によると、集まった浄財は六万両は下らない金額にのぼったとみられ、尚忠はこれを王政復古を成し遂げる資金として使ったものと考えられている、のだそうです。

さっそく配布されたという三部経を探してみました。残念ながら看板だけで念信寺では今のところ見つかりません。笑

またこれは江戸時代の篤信のお同行の像だそうです。木製です。

それと以前、たしか住職が子ども時代にはお同行さんの写真が本堂の長押しに掲げられていたような記憶があります。

その時代、社会の大きなうねりの中で人々がどう生きたかの奥深い歴史が残っているのがお寺なのだと感じたものです。



像の裏には施主と制作者の名前がある。

